

この樹どんな樹？見に行こう！／なんじゃもんじゃの木

みどり探訪／清水の屋敷林

緑の歳時記／ムギクサ

特集／都市のみどりを守るフォーラム2013

「みどりのイベント2013」開催

みどりの窓／「杉並区みどりの実態調査」報告

後世にのこしたい杉並の屋敷林

「緑化事業パンフレット」作成

園芸ワンポイント／ハナショウブ



この樹どんな樹？ 見に行こう！

なんじゃもんじゃの木 (ヒトツバタゴ)

毎年4月の末から5月にかけて、阿佐谷の世尊院前の歩道橋のそばに華やかな空間が生まれます。満開の白い花、まるで雪が降り積もっているようなその木の姿に思わず見とれたという方は多いのではないのでしょうか。

これは通称「なんじゃもんじゃの木」という木です。この妙な名前は“目立つけれど何だかよくわからない木”の総称で、地域によっていろいろな木がナンジャモンジャと呼ばれているようです。

この木の正式樹名はヒトツバタゴ（モクセイ科）といいます。日本では南のごく限られた地域にしか自生しておらず、希少種の樹木です。先代のご住職の時代に檀家の渡邊条次郎氏から寄進を受け、当時の本堂の前に植えられていました。しかし、昭和52年に中杉通りが世尊院を2つに分ける形で開通したため、現在の場所に落ち着いたということです。

残念ながら今年の開花時期は過ぎてしまい、今は他の木々と並んで静かに葉を茂らせています。来年の初夏には、またたくさんの白い花をつけて私たちに魅了してくれることでしょう。楽しみですね。



みどり探訪

清水の屋敷林



▼ムクロジの実（黒い種子は追い羽根の玉に使われます。）

清水森公園の南側にある屋敷林は、約1万㎡の広さがあります。南側半分は生産緑地の畑で、残り半分は杉並区の保護樹林の指定を受けている屋敷林です。

ご当主の祖先はこの場所に元禄の頃から住み続けられており、今の当主で17代目だそうです。邸内にはお稲荷さんも祭られていて、大切に守られています。

屋敷の北側は、シラカシを植えて防風林としています。他にもケヤキ、ムクノキ、ムクロジなどの落葉広葉樹やモチノキ、モッコクなどの常緑広葉樹、モウソウチクなどの混交林があります。

なかでも高さ30mを超える幹周り4mほどの大きなケヤキは、杉並区の貴重木に指定され、辺りいっばいに

みどりを茂らせ、素晴らしい景色を演出しています。

この屋敷林は、夏は緑陰と葉からの蒸散で涼しさを提供し、冬には乾燥を和らげる役割など、まさに天然のエアコンのようです。周辺の地域に新鮮な空気がいつも満ちあふれるように、周りの人々に快適な空間を提供しています。

一方、ご当主は「木々の落ち葉などでご迷惑をおかけすることもあります。近隣の方々からよき理解をいただいています。」と感謝しておられました。畑にはウメなども植えて、幼稚園の子どもたちが喜んで遊べる機会を設けられています。

今回の取材を通じて、ご当主と奥様の穏和な人柄にふれながら、地域の方々への素敵な心遣いを感じました。



▲貴重木のケヤキ



▲延々と続く生垣



◀ 壮観な屋敷林

緑の歳時記

区内でよく見かける帰化植物

ムギクサ (麦草)

イネ科/ヨーロッパ原産の越年生草本

茎 はほぼ無毛で高さ10~60cmになり、よく分枝して株になり束生します。葉は柔らかく長さ5~10cmで、両面の脈状に軽毛があり、基部には葉耳※1があります。

春から夏にかけ茎先にビール麦やライ麦を思わせる5~10cmほどの穂をつけます。小穂※2の先には長いのぎ※3があります。

明治初期に横浜で採集されて以来、現在では本州以南で普通に見ることができます。オオムギの品種改良の遺伝子源として使われることがあります。

区内では和田堀公園、善福寺川緑地沿いによく見られます。



※1 葉耳：葉の基部の両端が耳状に突出したもの
※2 小穂：イネ科やカヤツリグサ科の花序の基本になる部分。たくさん集まって穂になる。
※3 のぎ：細長い毛状、またはとげ状のもの

都市のみどりを守る フォーラム 2013

～過去から未来へつなげるみどり～

先着
200名様
(予定)
**花苗
プレゼント**

フォーラムへ来場された
先着200名(予定)の方に、
花苗をお配りします。



マイバックをご持参ください

平成25年 **8月10日(土)**

13:30～15:30 (13:00開場)

このフォーラムは…

平成16年度に「都市のみどりを守る」緊急フォーラムと題し、杉並区から始まりました。同じ課題を抱える近隣の区市がともに集まり、大都市東京の貴重なみどりとして存在している屋敷林や貴重な樹木、生垣、農地、社寺林、民間グラウンドなどをどのように守っていくかを、毎年参加自治体を会場としながら話し合ってきました。

今年度は、今まで行ってきた「都市のみどりを守るフォーラム」を振り返るとともに、東京都と国土交通省の方々にオブザーバーとしてお迎えし、6区2市の首長が一堂に会して、将来のみどり行政について話し合います。



場所 座・高円寺2

杉並区高円寺北2-1-2

参加費 無料

申込み 当日、直接会場へ

第1部

基調講演

講師

和田 博幸 氏

日本花の会 花と緑の研究所
主任研究員・樹木医

第2部 パネルディスカッション

みどり豊かな都市をめざして

コーディネーター **和田 博幸 氏**

○参加自治体

大田区 世田谷区 中野区 板橋区
練馬区 武蔵野市 三鷹市 杉並区

○オブザーバー

国土交通省
東京都

手話通訳
あり



主催 東京みどりの研究会

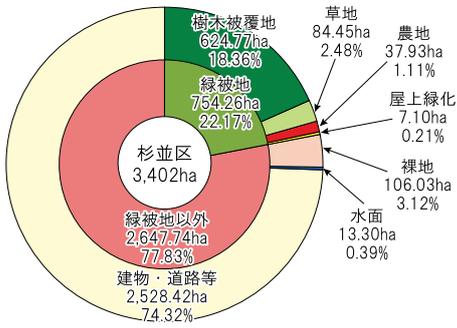
問合せ先 杉並区都市整備部みどり公園課 TEL:03-3312-2111

平成24年度 杉並区みどりの実態調査 報告

区内のみどりの実態を把握するため、昭和47年より5年ごとに実施しているみどりの実態調査について、主な調査の結果をお知らせします。

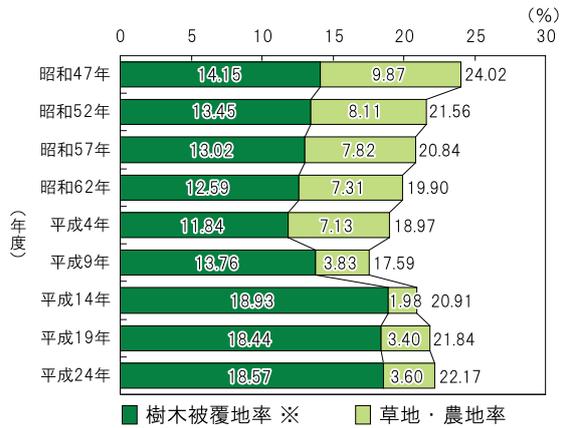


緑被率 22.17 %
緑被面積 754.26 ha



緑被地等の構成比

緑被率とは樹木や草地などの緑で被われた面積が、区域面積に占める割合です。

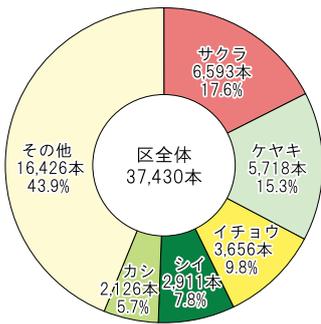


※本図の樹木被覆地率には屋上緑化率が含まれています。

緑被率の経年変化



樹木本数 37,430 本

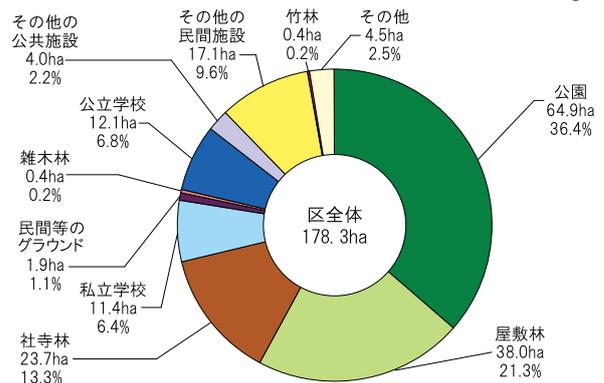


樹種別樹木構成比

地上高1.5mの幹の直径30cm以上の樹木は37,430本でした。



面積300㎡以上の樹林 979 箇所 178.3 ha

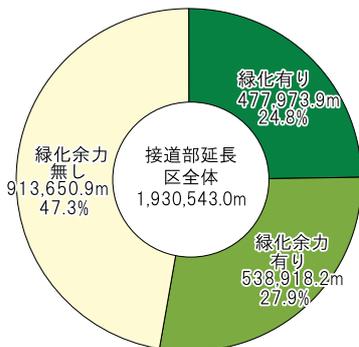


形態別樹林面積の構成比

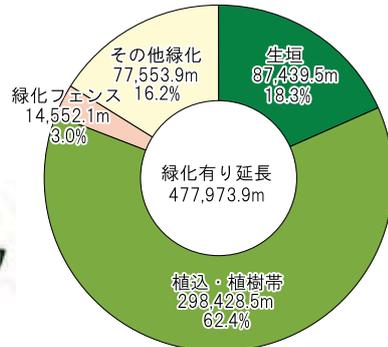
公的樹林(公園、公立学校等)は81.0ha(45.4%)、私的樹林(屋敷林、社寺林等)は97.3ha(54.6%)でした。



接道部緑化率 24.8 %



緑化状況の構成比



緑化有りの種別構成比

接道部緑化率とは、敷地の道路面(接道部)の生垣や植込等の緑化延長が接道延長に占める割合です。「緑化有り」は生垣や植込・植樹帯といった緑化の行われているところ、「緑化余力有り」はブロック塀といった将来的に緑化が可能のところ、「緑化余力無し」は将来的にも緑化の可能性が低いところとしています。



シュロで作ったバッタ

みどりのイベント2013

～みどりに親しみ、みどりと遊び、みどりについて考える～



今年度はナミーが初参加しました

身近にある「みどり」をテーマに、遊びを通してみどりについて考える「みどりのイベント2013」を5月18日（土）に柏の宮公園（浜田山2-5-1）で開催しました。

このイベントには、地域でみどりに関する活動をしているボランティア団体をはじめ、区内の造園事業者有志、杉並区（茶道部有志、みどり公園課）などが、みどりと関係する20の企画を出展しました。

毎年恒例のシュロの葉っぱ工作、竹ぼっくり制作などの各工作コーナーでは、子どもと一緒に大人も、

モノづくりを楽しんでいました。また区制施行80周年事業として、昨年度、多くの皆さんから推薦いただきました杉並区みどりの顕彰「後世にのこしたい杉並の屋敷林」の表彰式を併せて行いました。

今年は高井戸中学校地球環境部の生徒達による樹林保全についての活動報告パネルも展示され、多くの方が足を止めて熱心に見ていました。

当日は天候にも恵まれ、のんびりと公園内にシートを敷いて過ごす家族連れなど、延べ3,000人の方にご参加いただきました。



竹ぼっくり制作



高井戸中によるパネル展示



「後世にのこしたい杉並の屋敷林」表彰式

みどりの窓

後世にのこしたい杉並の屋敷林

「後世にのこしたい杉並の屋敷林」では、多くの皆さんから区内の素敵な屋敷林を推薦いただきました。その中から外部委員による選考委員会を経て、12か所(グループを含む)の表彰地を選びました。

みどりのイベント2013（上記参照）で表彰式を行いました。このような素晴らしい屋敷林を広報すぎなみやリーフレットなどでも紹介しています。

今回、紹介できなかった場所以外にも、杉並区にはまだまだ多くの屋敷林が残っています。皆さんも、これを機会に自分の好きな屋敷林を探してみませんか。



表彰地

新しい緑化事業パンフレットを作成しました



新しい緑化事業パンフレット「まちのみどりを育て・創り・守るために」を作成しました。区民の皆さんに助成制度のことやみどりの保全や育成等、杉並区の緑化事業全般について紹介しています。区役所みどり公園課と各公園管理事務所に置いてありますので、ぜひご覧ください。



みどりに関する相談は
塚山公園みどりの相談所

☎03-3302-9387

杉並区下高井戸5-23-12

毎週土・日曜日 午前9時～午後4時30分

休所日・年末年始(12/29～1/3)



ハナショウブ ～開花後の手入れの仕方～



ハナショウブの魅力

空が薄墨色に覆われ、梅雨が訪れる頃、水気をいっぱい含んだハナショウブがほころび始めます。満開になった花を菖蒲田にたたずんで観ると、花に酔って、思わず夢心地になります。

◆植替え(株分け)

ハナショウブは大株になると衰える性質があるので、2～3年に一度は植替え(株分け)をします。適時は、花期終了直後が最も良く、真夏は避けます。植替えの時には肥料を与えず、条件が良ければ半月くらいで活着します。

まず、株を鉢から出し、古い土を良く落とします。

花の終わった花軸をハサミなどで元から切り、1芽ずつに分けます。葉も長さの1/2の扇形に切詰めて植付けます。土は田土(荒木田)のような重い土と腐葉土を混

ぜたものが良いでしょう。7号くらいの鉢の中心に苗を2～3本植えます。受け皿に1cm程度水を入れ、鉢を浸し続けます。

残暑が過ぎ、9月の彼岸頃までは肥料を与えないで管理します。その後、鉢を浅水より上げ、寒くなって葉が枯れるまで速効性の薄い液肥を与えます。11月に枯葉を刈り取り、日当たりの良い場所で冬を越します。

◆置き場所

なるべく日当たりの良い場所に置きます。一日の半分くらいしか直射日光が当たらない場所に置くと倒伏しやすくなります。一方、日当たりが良ければ土質を選ばず、小さな鉢でも立派に咲かせることができます。

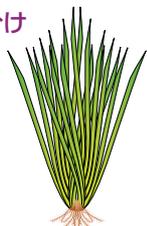
◆肥料

ハナショウブは冬に休眠する宿根草で、秋に根に蓄積した養分で、翌年、葉や花を作ります。そのため、秋に十分な肥料を与えることが最も大切です。植替えの時には決して元肥を混ぜないで、少なくとも1か月以上経ってから、十分に発根したのを確かめてから追肥します。

◆水やり

アヤメほど乾燥に強くなく、カキツバタのように水の中が好きでもないので、鉢植えの場合は、受け皿に少しの水が残るくらいが良いです。

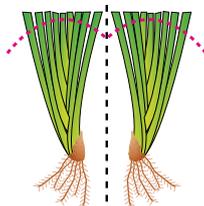
株分け



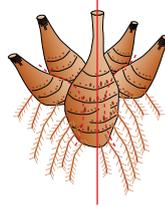
①根をなるべく切らないように掘り上げ、葉を全体の1/2くらいに切り詰める。



②花茎を根元から切る。



③花茎の真ん中から2つに割るようにはさまみや刃物で切り離す。



④花茎を根元から切った時、子株にも根がつくようにする。

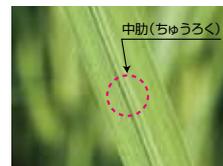
植付け



受け皿
水を浅く溜める。

◆ハナショウブ、アヤメ、カキツバタの違い

	ハナショウブ	アヤメ	カキツバタ
適地	乾地、湿地いずれも適応	乾燥地、草原、傾斜地	低湿地、浅水の池沼
葉	幅は中くらい、主脈中肋著しい	幅は狭い、主脈は目立たない	幅は広い、主脈は目立たない
開花期	5月下旬～6月中旬	5月上旬～中旬	5月上旬～下旬
外花被	基部にわずかな黄色	基部に紫褐色の網目模様あり	基部に黄・白斑あり



葉の中央を縦に通っている太い葉脈

編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- ハナショウブといえば広い菖蒲田でみるものと思っていたけれど、澤地先生に育て方を伺ってなんだかとても身近な花になりました。(朋)
- 照葉の 青葉こんもり 屋敷林(石)
- 屋敷林の取材に伺い、広大さに驚き、守っていらっしゃる方々が人間的に素晴らしく、この方達だからこそと心から感銘しました。(原)
- 私たちを癒してくれる可憐な草花には、蕾から枯れ果てるまでわずか数週間という儂い人生ならぬ「花生」が…なんて思うこの頃です。(羽)
- 「枕草子」に「大きにてよきもの」とされているのは、当時植えられていた大粒のタンバホオズキ。浅草観音様のホオズキ市で見ることができました。(山)
- 区内のみどりを求めて、善福寺川大谷戸橋付近に点在して開園した公園あり。これも歴史の流れの1こまを感じます。(中)
- 初めて「なんじゃもんじゃの樹」を見ました。遠くから見ると華やかですが、一つ一つの花は地味で細い花びらが珍しい。来年は友人を誘って見に行きたい。(芳)



みどりの新聞 みどりとひと160号 平成25年7月21日発行

編集/みどりのボランティア

編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111

「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/

